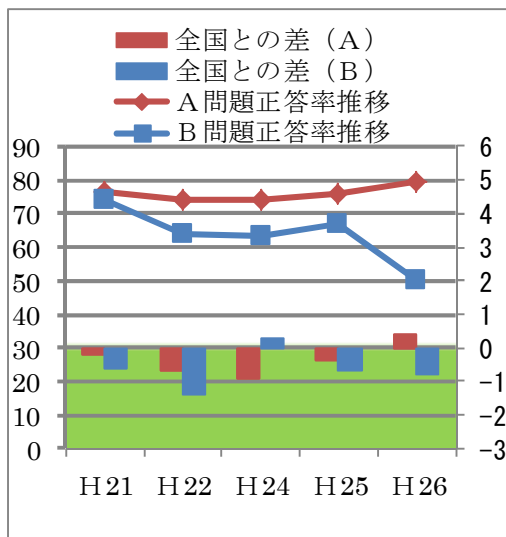


平成26年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

1 結果のポイント



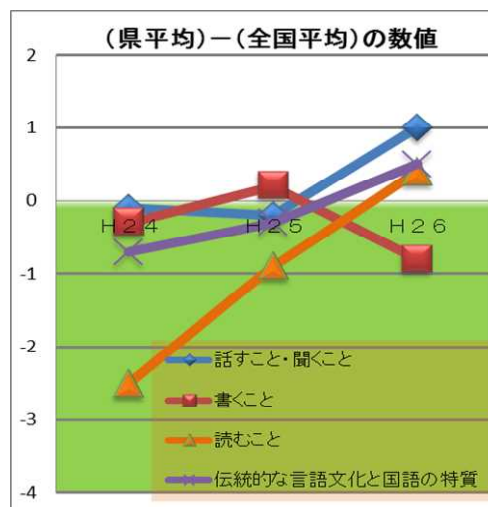
中学校：国語A		平均正答率(%)		
領域	大分県	全国	差	
話すこと・聞くこと	73.3	72.3	+1.0	
書くこと	82.6	83.4	-0.8	
読むこと	83.3	82.9	+0.4	
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	79.2	78.7	+0.5	
全体	79.8	79.4	+0.4	

中学校：国語B		平均正答率(%)		
領域	大分県	全国	差	
話すこと・聞くこと	
書くこと	39.7	41.0	-1.3	
読むこと	48.4	49.2	-0.8	
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	56.3	56.8	-0.5	
全体	50.2	51.0	-0.8	

中学校：国語A

全問題数：32問（選択式20問・短答式12問・記述式0問）

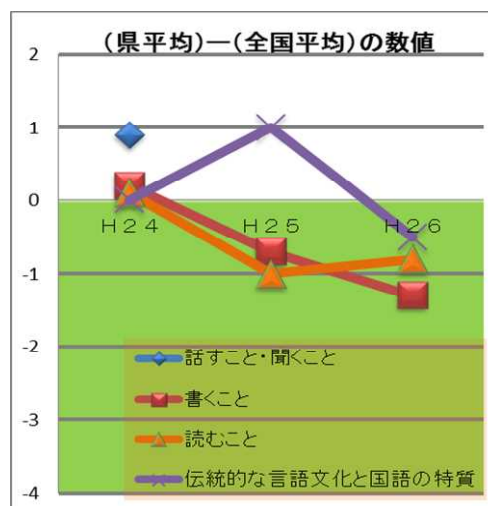
- 平均正答率 79.8%（選択式 83.5%・短答式 73.5%）で、H25年度に比べ上昇、全国値を上回った。
- 全国平均正答率との比較で見ると「話すこと・聞くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で上昇傾向にある。
- 「書くこと」領域は、正答率が 82.6%と 8割を上回ったが、全国平均正答率を下回っている。
- 漢字の読みは3問中3問で全国平均正答率を下回っている。



中学校：国語B

全問題数：9問（選択式6問・短答式0問・記述式3問）

- 平均正答率 50.2%で、全ての領域（「話す・聞く」の設問はなし）で全国平均正答率を下回っている。
- 9問中6問で正答率を下回る。
- 無回答率が全国平均より高い問は3問あり、全て記述式の問題である。
- 全問題で正答率 70%を下回っている。



2 課題が見られた問題と指導改善のポイント

中学校：国語A

(1) 話すこと・聞くこと

①目的に沿って話し合い、互いの発言を検討する。〈指導事項・話すこと・聞くこと2年オ〉

A⑥一 (正答率 55.6%・全国 54.3%)

6 岩田さんの学級では、卒業文集の題名を決めています。次は、話し合いの内容を整理した【黒板】と【話し合いの一部】で、これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

題名の候補について

	候補	メモリー ～いつも隣に友がいた～	はばたき ～さずなを胸に～
整理	学級の団結力		
共通点			
相違点	過去の思い出		

【話し合いの一部】

前回、題名の候補を「メモリー～いつも隣に友がいた～」と「はばたき～さずなを胸に～」に絞りました。今日は、題名を決定します。まず、それぞれの題名の推薦者から再度意見を聞きます。そして、話し合ってみます。それでは、南さんからお願いします。

「メモリー～いつも隣に友がいた～」がよいと考えます。修学旅行や合唱などの思い出を記録するのが文集だからです。読み返すたびに楽しかった過去を思い出さう。また、副題がら、学級でいつも団結できたことも表せます。

【黒板】にある相違点の欄の□に当てはまる言葉を、高橋さんの発言の中にある言葉を使って、六字以内で書きなさい。

「はばたき～さずなを胸に～」を推薦する理由は「一つあります。一つは、未来にはばたいていく私たちの姿を表す題名だからです。二つめは、行事も団結して取り組んだ学級のこと「さずな」という言葉に込められているからです。

相違点：この部分の言葉を六字にする。

- 互いの発言を検討して共通点や相違点を整理することに課題があると考えられる。
- 複数の案から一つに絞り込む話し合いを行う際には、図表を用いるなどして、共通点や相違点など様々な観点に沿って発言を整理する学習活動が有効である。

【参照】「平成26年度全国学力・学習状況調査報告書」40・41ページ

「平成26年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」7ページ

(2) 書くこと

①書いた文章について意見を交流し、文章を書き直す。〈指導事項・書くこと 2年オ〉

A7二 (正答率 71.6%・全国 72.1%)

- ・「3」を選択した生徒が 14.8%であった。下書きの第1段落の内容を調べて分かったことと捉えたためと考えられる。
- ・書いた文章を交流する際には、交流の重点を単元のねらいに合わせる事が大切。例えば、「構成」を指導することをねらいとした単元では、交流の際にも「構成」に重点を置いて意見を述べ合うように指導することが重要である。

【参照】「平成 26 年度全国学力・学習状況調査報告書」45・46 ページ

【文章の下書き】

橋の上では、旅人が僧に深々とおじぎをしています。よく見ると、そんなかまいった旅人とは対照的に、橋を渡る子供の踊るような姿がユーモラスに描かれています。

この絵からは、旅の中での人々の様子が生き生きと伝わってきます。そして、遠くを小さく描き、手前に大きく橋を配置することで、遠近感のあるダイナミックな絵となっています。

この絵には様々な工夫があり、見る人の想像をかきたててくれます。

二 西さんは、「文章の下書き」を読んだ友達からアドバイスをもらい、第一段落と第二段落を入れ替えて書き直すことにしました。このときのアドバイスとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

1 絵全体の印象を先に書き、部分を見て分かることを後に書くことよと思う。

2 疑問に思ったことを先に書き、それについての考えを後に書くことよと思う。

3 調べて分かったことを先に書き、自分で考えたことを後に書くことよと思う。

4 この絵の一般的な評価を先に書き、それに対する反論を後に書くことよと思う。

(3) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する指導事項

①文脈に即して漢字を正しく書く。／ 文脈に即して漢字を正しく読む

〈指導事項・伝・国 2年(1)ウ(イ)〉

A8一・二

		県正答率 (%)	全国正答率 (%)
8-1	地域の人を <u>ショウタイ</u> する	59.8	57.6
8-2	円の <u>ハンケイ</u> を求める	64.9	59.5
8-3	計画を行動に <u>ウツ</u> す	79.1	73.6
8二1	<u>アユ</u> の <u>稚魚</u> を放流する	74.9	77.0
8二2	このホールは <u>音響</u> 効果が良い	86.6	88.6
8二3	新記録に <u>挑む</u>	94.7	95.2

- ・「ショウタイ」の無解答率は 12.5%である。また、「ショウ」を「紹」「召」とするもの、「タイ」を「持」「対」とする誤答が見られた。
- ・「ハンケイ」の「ケイ」を「経」「形」とする誤答が見られた。
- ・書くことの指導においては、漢字の字形や画数、読みや意味などを指導する必要がある。その際、字形の似ている漢字のそれぞれの意味を理解させるとともに、部首との関連や熟語や文中でどのような意味で用いられているかを確認させることが大切である。

【参照】「平成 26 年度全国学力・学習状況調査報告書」48・49 ページ

②辞書を活用して、語句の意味を適切に書く。〈指導事項・伝国2年(イ)イ〉

A ⑧四 (正答率 55.8%・全国 59.9%)

- ・複数の語の意味を的確に合わせて理解することに課題がある。
- ・無解答率が 14.2%。
- ・正答の条件は次の 2 点である。
 - ①【国語辞典】の「英気」の②を説明している言葉と、「養う」の③を説明している言葉を使って書いている。
 - ②「英気を養う」の意味を適切に書いている。
- ・「4年間のまとめ」では、辞書に書かれている記述から語句の意味を適切に捉えることに課題があるとしている。この点については、引き続き課題があると考えられる。

【参照】「平成 26 年度全国学力・学習状況調査報告書」53～55 ページ

四 林さんは、「読んでいた本の一部」の「線部「英気を養う」の意味が分からなかったため、国語辞典で調べました。あとの【国語辞典】に載っている「英気」と「養う」を説明している言葉をそれぞれ使って、「英気を養う」の意味を書きなさい。ただし、「英気」については①と②のどちらかの説明、「養う」については①から③のいずれかの説明を選び、その言葉を使いなさい。

【読んでいた本の一部】

十分に休養を取ったので、明日の英気を養うことができました。

【国語辞典】

えいき【英気】(名) ①すぐれた才気。 ②活動する気力。

やしな・う【養う】(他動・五段) ①衣食など、生活の面倒をみる。 ②餌を与えて動物を飼う。 ③体力・知力などを少しずつ作り上げる。

この二つの意味を合わせて、適切に書く。傍線の前の「十分に休養を取ったので」もヒントになる。

中学校：国語B

(1) 書くこと／読むこと

①文章に表れているものの見方について、自分の考えをもつ〈指導事項・読むこと2年エ〉

B ①二 (正答率 59.5%・全国 58.9%)

- ・標語 (=メッセージ) に表れているものの見方を捉えることに課題がある。
- ・「2」を選択した生徒が 20.7%、「3」を選択した生徒が 11.5%であった。これらは、早川さんの学習が知識や体験と関連付けて自分の考えを述べることになっていることを理解できていないものと考えられる。
- ・標語などを読む際には、メッセージを豊かに想像することが求められる。その際、書かれている内容を捉え、自分の知識や体験などを想起しながら作者の思いを考えることが大切である。その上で、メッセージに対する自分の感想を書いたり、他の人と意見を交流したりすることなどを通して、自分の考えを明確にすることが重要である。

【参照】「平成 26 年度全国学力・学習状況調査報告書」62・63 ページ

1 図書委員の早川さんは、皆にちと本を読んでもらうために、社会で取り組まれている「読書週間」の標語を参考にして標語を作っています。次は、「読書週間」の標語を整理した「早川さんのノート」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【早川さんのノート】

「読書週間」の標語

■ 標語から伝わってくるメッセージと、表現の工夫とその効果について

① (メッセージ) ↓ お気に入りの一冊をもつことは人生を豊かにする。この機会に本をたくさん読んで好きな一冊を見つけてほしいというメッセージが伝わる。

② (表現の工夫 ↓ 呼びかけの形で始める) ↓ 読む人の関心を引いているところがよい。 (その効果 ↓ 五七五のリズムが親しみがもてる)

③ (メッセージ) ↓ 秋はさわやかな季節なので、たまには快い風の中で本を読み、リラックスした時間を過ごしてみようかというメッセージが伝わる。

④ (表現の工夫 ↓ 秋が強調されている) ↓ を使って、情景を豊かに想像できるようにしている。また、体言止めが使われ

⑤ (メッセージ) ↓ 本と旅したり、本を旅したりするのはよいというメッセージが伝わる。

⑥ (メッセージ) ↓ 本の途中で本を読むのは楽しいことだ。また、旅をしなくても、本を読めば未知の世界を知ることができるというメッセージが伝わる。

「本」と「旅する」という言葉のつなげ方を一文字変えて繰り返しすることで、心地よいリズムが生まれている。

- 一 【早川さんのノート】の□に入る言葉として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。
- 1 反復法
 - 2 対句法
 - 3 擬人法
 - 4 倒置法

二 早川さんは、「早川さんのノート」の線部の内容が不十分であると感じたので、線部のように直しました。早川さんが直すときに注意したこととして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 標語の言葉をそのまま使うのではなく、標語に直接書かれていない作者の思いを想像して書く。
- 2 標語の言葉をそのまま使うのではなく、標語の内容に関連する事柄を様々な方法で調べて書く。
- 3 標語の言葉をそのまま使うのではなく、この標語の優れている点を他の標語と比較して書く。
- 4 標語の言葉をそのまま使うのではなく、これまでに自分が読んだ本の内容と結び付けて書く。

早川さんのノートから判断する。

三 早川さんは、次の二つの(標語) A、Bを作りました。これらの(標語)について、あなたのように思いますか。A、Bから一つ選び(ご自分の(標語)を選んでかまいません。)、選んだ(標語)から伝わってくる(メッセージ)と(表現の工夫)とその効果) についてのあなたの考えを、あとの条件1から条件3にしたがって書きなさい。なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

「標語」

A 心のアンテナ読書で伸ばそう

B その本が未来を示す案内図

- 条件1 (メッセージ) 及び (表現の工夫) とその効果 は、「早川さんのノート」を参考にして具体的に書くこと。
- 条件2 (メッセージ) は、「というメッセージが伝わる。」に続くように書くこと。
- 条件3 (メッセージ) 及び (表現の工夫) とその効果 は、それぞれ四十文字以上、六十文字以内で書くこと。(文末の「というメッセージが伝わる。」は字数に含みません。)

← 選んだ(標語) を塗り潰しなさい。

「標語」

① A

② B

「メッセージ」

40

60

というメッセージが伝わる。

表現の工夫とその効果

表現の工夫

その効果

早川さんのノートの「表現の方法とその効果」がどのように書かれているのか、参考にする。

60

②文章の構成や表現の仕方などについて、根拠を明確にして自分の考えを書く。

<指導事項・書くこと 2年オ／読むこと 2年ウ>

B ①三 (正答率 47.3%・全国 48.2%)

- ・作者の意図、表現の工夫やその効果などについて考えたことを、根拠を明確にして書くことに課題がある。
- ・正答の条件は
 - ① AとBのいずれか一つの〈標語〉を選んで、その記号を塗りつぶしている。
 - ② 【早川さんのノート】を参考にして〈メッセージ〉に〈標語〉に直接書かれていない作者の思いを「というメッセージが伝わる。」に続くように四十字以上六十字以内で具体的に書いている。
 - ③ 【早川さんのノート】を参考にして〈表現の工夫とその効果〉に〈標語〉で用いられている表現の工夫とその工夫に応じた効果を、四十字以上六十字以内で適切に書いている。の3つである。

- ・ ①②を満たしているものは 33.8%で、表現の工夫とその効果が空欄か適切に書かれていないものである。

(誤答例①) 心のアンテナは読書によって伸ばすことができるということが、読み手に印象的に伝わる効果があると思いました。…表現の工夫を書いていない。

(誤答例②) 倒置法が使われていることで、読書が将来の自分に影響を与えることを印象強く伝えているし、覚えやすくてよい。…倒置法の効果を適切に述べていない。

(誤答例③) 未来を示すだけではなく、夢や希望を与えるような案内図であれば、多くの人はその本を読んでくれると思う。…感想を述べているだけである。

- ・ 書いた文章を交流する際には、どのような観点で意見を述べ合うのかを明確にする必要がある。その上で、単に感想を述べ合うだけではなく、叙述を具体的に取り上げたり、自分の考える代案を示したりするなど、根拠を示して具体的に考えを述べ合うことが大切である。
- ・ 例えば、短い言葉で表された標語を読み合う際には、それぞれの標語が伝えようとしていることについて確認するとともに、用いられた表現の技法によってどのような効果が生まれるか、作者が伝えたいメッセージが伝わっているかなどを交流することが重要である。

【参照】 「平成 26 年度全国学力・学習状況調査報告書」 63～66 ページ

「平成 26 年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」 9・10 ページ

③資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書く。

<指導事項・書くこと1年ウ・読むこと2年オ>

B2三 (正答率 26.0%・全国 28.4%)

切手の接着剤の
説明部分

アンカー効果の
説明部分

2

【本の一部】

次は、接着剤について書かれた【本の一部】と「インターネットの情報の一部」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

いろいろな物をくっつけることができる接着剤。物を組み立てるときや壊れた物を直すときなどに、とても便利なものです。なぜ接着剤は物と物をくっつけることができるのでしょうか。物をくっつける仕組みはいろいろありますが、ここでは代表的な仕組みで考えてみましょう。

接着する物の表面を顕微鏡で見ると、つるつるしているように見える金属でも、その表面には肉眼では見えない凹凸があることが分かります。そこに接着剤を塗ると、凹凸のすき間に接着剤が入り込みます。そして、すき間に入った接着剤が固まることで物がくっつきます。これをアンカー効果といいます。アンカーとは船の錨のことです。接着剤が物をくっつける仕組みを、海の底に錨を下ろし船を留めておく様子に例えて、そう呼んでいます。つまり、液体の状態での表面に広く行き渡った接着剤が、すき間に入って固体となることで、物と物をくっつけているのです。

次に、接着剤が液体から固体になる変化について考えてみましょう。

接着剤が液体から固体になる変化には、いくつかの種類があります。例えば、工作用の木工用接着剤は、接着剤の中に水分や溶剤を含んでいて、それらが蒸発することで固まります。水分を含んでいない切手の場合も同様で、切手の裏側のこの部分は、必ずしも液体の接着剤になり、やがて固まります。つまり、接着剤に含まれる水分や溶剤が蒸発することで、接着剤が液体から固体になる点で共通しています。また、アイロンでくっつけるタイプのアクリル樹脂の場合は、固まっていた接着剤がアイロンの熱によって溶けていったん液体になり、それが冷えて固体になることでくっつきます。このように、熱を加えて接着剤を一度溶かし、その後、液体が冷えて固まることでくっつく接着剤をホットメルト接着剤といいます。他にも、液体が化学変化を起こして固体になるものがあります。例えば、瞬間接着剤はその一例です。物の表面には、乾いているように見えてもわずかに水分が含まれています。また、空気中にも水分が含まれています。瞬間接着剤は、それらの水分に反応し、非常に速いスピードで固体に変化するので、最後に、接着剤がどのような場面で使用されているか考えてみましょう。

接着剤の用途を調べると、思いもよらないものに接着剤が使用されていることに気がきます。例えば、飛行機やスペースシャトルの機体の組み立てには接着剤を使用しています。電子部品を作る際にも、金属の粉などを混ぜた接着剤を使用することがあります。また、つり橋の中には、橋を支えているロープを、コンクリートでできた土台の中に接着剤で固定している橋もあります。このように、現代において接着剤は、様々な場面で使用されています。

(注1) 溶剤は物質を溶かすに用いる液体状のもの。
(注2) アクリル樹脂は布地の上に、別に切り抜いた布や革を縫い付けたり、貼り付けたりする手芸、また、その付けられたもの。

【インターネットの情報の一部】

(経済産業省ウェブページによる。)

1 【本の一部】と「インターネットの情報の一部」の内容を比較したときの説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

1 接着剤が物をくっつける代表的な仕組みについて、【本の一部】では物をくっつける過程を述べ、「インターネットの情報の一部」では図を用いて具体的に説明している。

2 接着剤の用途について、【本の一部】では意外なものに使われていることを述べ、「インターネットの情報の一部」では使用場面ごとに項目を立てて具体的に述べている。

3 接着剤が液体から固体になる変化の仕方について、【本の一部】では接着剤の種類ごとに述べ、「インターネットの情報の一部」では代表的な例を取り上げて説明している。

4 簡単にはがせる接着剤について、【本の一部】では簡単にはがせる仕組みを図を用いて説明し、「インターネットの情報の一部」ではその接着剤を利用した商品を紹介している。

2 次の接合点のうち、【本の一部】や「インターネットの情報の一部」を使って、答えが得られるものはどれですか。次の1から5までのうち、適切なものを二つ選びなさい。

- 1 ガラスとゴムを接着するとき、どのようなことに気を付けたらよいか。
- 2 アクリル樹脂をくっつけるとき、アイロンは何度にするべきか。
- 3 人工の歯をつける接着剤と血管をつなぎあわせる接着剤の違いは何か。
- 4 飛行機を組み立てるときに接着剤を使うと、どのような利点があるか。
- 5 瞬間接着剤が非常に速いスピードで物を接着することができるのはなぜか。

3 封筒に貼つてある切手を水の中にしてしばらく浸しておくと、きれいにはがすことができます。その理由を次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 「切手」「液体」「アンカー効果」という言葉を全て使って書くこと。

条件2 二十文字以上、五十文字以内で書くこと。

・目的に応じて適切な情報を得て伝えたい事柄が明確に伝わるように書くことに課題がある。また、無解答率が17.4%で、全国値から1.4ポイント高い。

・正答の条件は

- ① 切手を水の中にしばらく浸しておくときれいにはがすことができる理由を適切に書いている。
- ② 「切手」「液体」「アンカー効果」という言葉を全て使って書いている。
- ③ 二十字以上五十字以内で書いている。

の3点である。このうち、②③を満たし、①を満たしていない解答が51.2%であった。

(誤答例①) 水の中に入れると、封筒と切手の間に液体が染み込み、アンカー効果が起きるため。

…アンカー効果について正しく読み取ることができていない。

(誤答例②) アンカー効果がなくなったから、切手ののりが固体から液体になった。

…原因と結果を逆に捉えて書いている。

(誤答例③) アンカー効果でくっついてきた切手が、水に浸すことで固体から液体になったから。

…事実を明確に書くことができていない(切手が液体になるわけではない)。

・文章を読んで得られた知識は、他の人に向けて説明することで一層明確になる。説明する際には、複数の情報を正確に理解し、相手や目的に応じて取捨選択したり関係付けたりして、説明する内容を適切に表現することが求められる。その際、以下の二点を意識するように指導することが大切である。

○本や資料から得た情報を正確に理解して整理しているか

○伝えたい内容を正確かつ分かりやすく述べているか

- ・言語活動に取り組みさせる際には、評価規準を具体的に設定し、生徒が表現した内容が適切であるかどうかを判断し、必要に応じて指導を加えることが大切である。
- ・定期テスト等において、教科書で学習した文章とは違う文章で、身に付けた能力が定着しているかどうかを確認することも重要である。

【参照】「平成26年度全国学力・学習状況調査報告書」70～72ページ

「平成26年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」11・12ページ

④落語に表れているものの見方や考え方について、根拠を明確にして自分の考えを書く。

<指導事項・書くこと1年ウ・読むこと2年エ>

B ③三 (正答率45.6%・全国46.5%)

・登場人物の言動に表れているものの見方や考え方について、根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題がある。

・無解答率が8.9%と全国値から0.3ポイント高い。

・正答の条件は

- ① AとBのいずれか一つの〈演じ方〉を選んで、その記号を塗り潰している。
- ② このように言った殿さまの気持ちを想像して適切に書いている。
- ③ 【落語「目黒のさんま」のあらすじ】や【落語「目黒のさんま」の最後の部分】から正しく引用

したり要約したりして書いている。

④ ③が、②の根拠として適切である。

⑤五十字以上、八十字以内で書いている。

の5点である。このうち、②④を満たしていないものは18.9%である。

(誤答例①) 殿さまが家来に用意させて親戚の家で食べたさんまは、以前目黒で食べたさんまと大きく味が違っていたから。

・・・殿さまの気持ちを書くことができていない。

(誤答例②) 殿さまは、ずっとさんまを食べたがっていたので、「蒸して、脂がぬいてあるばさばさのさんま」でも食べられてうれしかったと思うから。

・・・殿さまの気持ちを想像して適切に書くことができていない。

(誤答例③) 目の前に出てきたさんまは、目黒で食べたさんまと見た目も味も違うので「これがさんまか？」と家来に問いかけるように演じた方がよいと思い、Bを選びました。

・・・殿さまの気持ちを書くことができておらず、選んだ理由を書いている。

・⑤の五十字～八十字の字数制限を満たしている解答は71.2%である。

【落語「目黒のさんま」のあらすじ】

ある秋の日、江戸に住む殿さまが、家来を連れて、郊外の目黒まで馬に乗って出掛けました。殿さまが空腹を感じ出した頃、どこからか魚を焼くにおいが漂ってきました。殿さまは、このよいにおいが、「さんま」という魚を焼くにおいだと知り、さんまが食べたくてたまらなくなりました。

殿さまは、家来たちに「早速さんまを用意せよ。」と言い付けました。しかし、このあたりには魚屋も見当たらないため、さんまはすぐには手に入りません。困った家来たちは、さんまを焼いていた農家を訪ね、脂ののった焼き立てのさんまを譲ってくれるように頼みますが断られます。そのやりとりを聞いていた殿さまは、自らお願いし、ようやく、生まれて初めてのさんまを召し上がります。空腹のところへもってきて、匂のさんまですから、そのおいしさに殿さまは大喜びしました。

屋敷に戻ってから、殿さまは目黒で食べたさんまの味が忘れられません。しかし、殿さまの食事に庶民の食べるさんまなど出てくるはずもなく、さんまへの思いは日に日に募る一方です。

ある日、殿さまは、親戚の家に出掛けました。すると、「何でもお好みのお料理をお申し付けください。」とのことでしたので、殿さまは、待つてましたばかりに、「さんまが食べたい。」とおっしゃいました。親戚の家の家来たちは、早速日本橋の魚河岸から最も上等なさんまを取り寄せました。しかし、このような脂の多い魚を差し上げて、もしもお体にさわっては「大事と心配した家来たちは、十分に蒸して、小骨は毛抜きで抜いて、さんまのだしがらみ（だし）たいなものをこしらえました。

(注1) 日本橋の魚河岸は当時、江戸の日本橋には大きな魚市場があり、新鮮な魚が集まっていた。

(注2) だしがらみはだし汁をとったあとのかす。

※ 話は、このあとの【落語「目黒のさんま」の最後の部分】(次のページ)に続きます。



三 〳〳線部「これがさんまか？」とありますが、あなたならどのように演じますか。次の〈演じ方〉のA、Bから一つ選び(どちらの)演じ方を選んでかまいません。なぜそのように演じるのか、あなたの考えを、あとの条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

〈演じ方〉

A 家来を責めるように演じる。

B 家来に問いかけるように演じる。

条件1 このように言った殿さまの気持ちを想像して書くこと。なお、そのように想像した根拠を、【落語「目黒のさんま」のあらすじ】や【落語「目黒のさんま」の最後の部分】から引用したり要約したりして示すこと。

条件2 五十字以上、八十字以内で書くこと。

- ・登場人物の心情を豊かに想像することが、文章全体の面白さや雰囲気を楽しむことにつながる。そのためには、場面ごとに心情を捉えるだけではなく、文章の展開に即して変化していく心情を捉えることが重要である。
- ・登場人物の心情や作者の思いなどを想像するためには、自分が感じたことや考えたことの根拠を、文章の一節や文章の展開に照らして明らかにすることが重要である。例えば、落語の一部を朗読したり演じたりする課題を設定し、読み方や演じ方の工夫などを検討する学習活動が考えられる。その際に、登場人物の心情、人物相互の関係、話の展開などを根拠として、読み方や演じ方の妥当性について検討し、自分の考えをより確かなものにするのが大切である。

【参照】 「平成 26 年度全国学力・学習状況調査報告書」 76～79 ページ

「平成 26 年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」 13・14 ページ

平成26年度における主な特徴

- 自分の考えを表す際に、**根拠を示すことは意識されているが、根拠として取り上げる内容を正しく理解した上で活用する点に課題**がある。

〔B1三, B2三〕

- 文章や資料から必要な情報を取り出し、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くことについて、説明する際に、**文章や資料から必要な情報を取り出してはいるが、それらを用いて伝えたい内容を適切に説明する点に、依然として課題**がある。〔B2三〕



10

中学校国語科の授業に照らして考えると…

- 目的に応じて、資料等から情報を得て、思考・判断し、表現する(課題を解決する)授業

増えています！

次の課題

言語活動の質を高める

- ①情報をより正確に理解し、
 - ②より適切に表現する
- 教師が評価し、指導する

①と②は**一体的に**指導。「表現」するからこそ、正しく読む必然性が生まれ、適切な表現ができているか否かを確認する必要がある。



11

「平成 26 年度全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた説明会」資料より

3 指導の改善のポイント（全体を通して）

（1）課題解決的な言語活動を設定した授業づくり

- ・国語科は付けたい力を教えるのではなく、言語活動を通して、指導事項を指導し、付けたい力を付けていく教科であるので、基礎基本の積み上げだけでは活用する力は高まらない。ゆえに単元を貫く言語活動を設定した授業実践の一層の充実が必要である。
- ・「付けたい力（指導事項）」を明確にし、それを単元の指導過程のどこで付けるのか、本時では、具体的にどのような状況であれば「B」と判断するのかといったことを明らかにした上で授業に臨みたい。

（2）多様な図書資料等を活用する授業の推進

- ・必要な情報を素早く見付ける読み方や、必要な部分のみを詳細に分析する読み方等を経験させるような指導が大事である。そのためには、多様な図書資料等を用い、目的に応じた読み方を身につけさせる活動の充実を図ることが必要である。

- ・資料を読んで要旨を捉えたり、必要な情報を正確に読み取ったりする力を身に付けるために、目的に沿って資料の内容を整理したり、自分の言葉で言い換えたりした際に、それらの内容が、使用した資料の内容を適切に取り上げているかどうかを確認するように指導する必要がある。
- ・文章の構成や表現の仕方を捉えて自分の考えをもつ力を身に付けるために、書き手が文章を書こうとした目的や意図、それに応じた表現の工夫について丁寧に分析するように指導する必要がある。例えば、書き手はどういう効果を狙ってそのような表現の技法を使用したのか、それにより十分な効果は得られているのかなどの観点から文章を読むことが重要である。
- ・本や文章を読んで考えたことを具体的に書く力を身に付けるために、本や文章のどの部分に特に興味や関心をもったのかを明確に示した上で、なぜそこに着目したのか、その内容について自分はどのように考えるのかなどを丁寧に書くように指導することが大切である。例えば、引用した箇所と自分の考えとの関連、根拠として取り上げた内容の妥当性など、書いた文章を複数の観点から見直すことが重要である。その際、自分の考えに照らして、根拠として取り上げた引用や要約の量は適切か否かも考えることが大切である。

（「平成 26 年度全国学力・学習状況調査報告書」9 ページより）

（3）「めあて」の設定や指導にいかすことができる「より具体的な評価規準」の設定

- ・具体的な評価規準に基づき「C 努力を要する状況」の児童を見極め、「B 概ね満足できる状況」になるよう効果的な支援を行うことが必要である。
- ・「授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示された」生徒や「授業の最後に学習したことを振り返る活動をよく行った」生徒ほど平均正答率が高い傾向がある。学習の見通しをもたせ、学習の意味づけをさせることが有効と言える。

（4）その他、国語科授業で取り組むべきこと

- ・記述する力を高めるために様々な場面で「書く」活動を設定する。
記述の指導は、「書くこと」の指導だけでなく、3領域1事項に係る様々な活動を効果的に関連させることが重要である。

例（話す聞く）インタビュー等の取材メモ、スピーチ原稿等

（書くこと）鑑賞文、図表などを用いた説明・記録、案内、意見文、批評文

（読むこと）文章を読んで解釈し、自分の考え（感想や意見、評価、批評等）を明確に書くこと。目的に応じて本文を引用したり要約したりすること。

- ・伝えたい事柄を明確にして、分かりやすく書く指導の工夫
伝えたい事柄を整理して分かりやすく書く力を身に付けるために、目的や相手に応じて、取り上げる内容、それらを示す順番などを考え、よりよい文章にするように指導することが大切である。その際、取り上げる内容は適切か、それらの内容を用いて書いた文章が、伝えたい事柄を正確に伝えるものになっているかなどの観点で、文章を読み直すことが重要である。
- ・根拠を明確にして、自分の考えを具体的に書く指導の工夫
本や文章を読んで考えたことを具体的に書く力を身に付けるために、本や文章のどの部分に特に興味や関心をもったのかを明確に示した上で、なぜそこに着目したのか、その内容について自分はどのように考えるのかなどを丁寧に書くように指導することが大切である。例えば、引用した箇所と自分の考えとの関連、根拠として取り上げた内容の妥当性など、書いた文章を複数の観点から見直すことが重要である。その際、自分の考えに照らして、根拠として取り上げた引用や要約の量は適切か否かも考えることが大切である。

(「平成 26 年度全国学力・学習状況調査報告書」9 ページより)

- ・条件に即応して記述しなければならない場面を設定する。
時間・字数・文章の形態や種類・文体（常体・敬体・一人称・三人称等）・テーマ・対象・使用語彙・要約・引用・例示・技法（反復・倒置・比喩・反語等）・構成等条件を踏まえる必然性のある活動を設定する。

(5) その他、学校全体で取り組むべきこと

- ・漢字や語句、文法、表現技法等の確実な習得には、繰り返し練習が不可欠。
特に漢字は一度覚えても使わなければ忘れてしまう。繰り返し学習できる環境を学校全体で整えることが大切である。国語科だけでなく、各教科のノートや生活ノート、学級日誌等、様々な場面での指導が望まれる。